

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年9月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670102690号
法人名	(有) ライフサポート
事業所名	グループホーム たんぼぼの里
所在地	鹿児島市下福元町6718 (電話) 099-210-8812
自己評価作成日	平成23年7月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に『地域の中でその人らしく安心して暮らし続ける』を掲げ、利用者の方々が地域の中で普通の日常生活が過せるように色々と工夫しております。

例えば、地域の運動会や一斉清掃に参加し顔見知りを増やしております。また、気分転換を図ることを兼ねて月1回外食日を設け習慣としております。年1回は一泊旅行も開設以来続けております。

スタッフ離職率の低下を目指し、子育て支援、母子家庭への支援を続けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市南部の郊外に立地し、3ユニットと大所帯のグループホームである。法人は他にもデイサービス、小規模多機能ホーム、グループホーム、有料老人ホームを運営して地域の高齢者福祉の一端を担っている。

2棟の建物が広い芝生の庭を囲んで建てられており、開放感があって、2階からは桜島も臨めて、眺望が良い。また、大型ショッピングセンターや物産館、コンビニエンスストアが隣接し、散歩コースに最適で利便性にも富んでいる。

外出支援と個別支援を充実させて、墓参りや自宅訪問、美容室、銀行、買い物など、本人の希望に沿った個別の外出やユニットごとに全員での、毎月の外食、年に1回の一泊旅行、他にも季節の花見や果物狩りなどを楽しんでいる。また、校区の運動会見学には職員の手作り弁当持参で出かけ、利用者と共に地域との交流に努めている。

スタッフの資格取得の支援により、介護福祉士、看護師、栄養士など有資格者が多く、外出支援や個別支援、看取り介護など質の高いサービスの提供が行われている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を皆が見える場所に数ヶ所掲示。申し送り時、全職員理念を唱え日々の関わりの中で反映されるように努めている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を開設時に作成している。朝の申し送り時、職員会議などを利用して振り返り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。また、各ユニットごとに努力目標を毎月掲げて、職員全員で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加し、地域の方々と交流している。地元自治会の方よりグランドゴルフ参加への声掛けも頂き、定期的な交流も図られつつある。なるべく地域の方の雇用を優先し地域の一員として受入れられるようにしている。	地域の催し物(運動会・ゲートボールなど)の見学や清掃活動にも積極的に参加して地域との交流に努めている。小中学生のスポーツ少年団の子ども達が、毎年ホームの草刈りにきてくれるなど子どもたちとの交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の勉強会や講習会に参加し一緒に知識を深めている。また、介護相談や見学をいつでも受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き民生委員や町内会長の意見やアドバイスを頂き、地域での関わり方について話し合い、サービスの向上に取り入れている。スタッフは会議記録に目を通し情報を共有するようにしてる。	町内会長、民生委員、家族代表、薬剤師、職員、行政等の参加を得て2カ月に1回開催している。ホームの困難事例について、参加者から助言をもらったり、防災訓練後に会議を設けて意見や気づきなどを話し合っている。	

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に、地域包括支援センターより出席をしてもらい、協力関係が出来るように取り組んでいる。	日頃より、連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目に見えない身体拘束を行わないよう、朝礼や勉強会で具体的な例をあげ学習を行っている。スタッフ全員が、身体拘束をしないケアの意識は高い。リスクを伴う場合は見守りを強化するなどしている。	身体拘束のないケアの実践に取り組んでおり、ことばによる拘束や車イスの利用者を放置しないなど日常、起こりうる事例については、特に配慮するよう話し合っている。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な暮らしを支援している。外出傾向の利用者には職員がさりげなく着いて行き見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について講習会等に参加し、理解を深めている。勉強会やケアカンファレンスで虐待について話し合いを持ち、虐待が見過ごされる事がないよう防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への勉強会は行っていないが、対応が必要な利用者へは随時対応し、活用出来るように支援している。		

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、本人、家族へわかり易く明確に説明を行い同意を得た上で契約書を配布している。ホームケアに対する取り組みや考えの説明、退去、入院などによる契約解除に至る場合も、本人、家族を交え説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のご意見ボックスを玄関へ設置してるが、活用例はあまりない。日頃のケアにあたる中で、利用者の話しや態度から色々な思いを察知し、利用者本位のケアができるように心がけている。	毎年、家族会のあとに居室で管理者及び施設長が個々に話をする時間を設け、また日常の面会時や電話連絡の際に意見、要望を聞き出すようにしている。重要事項説明書にも窓口を明記している。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会に、代表者、管理者が参加し、職員の意見や要望を聞き、出来るところは取り入れるように心がけている。	毎朝夕の申し送りと、生活日誌・連絡ノートの回覧で職員間の情報の共有が図られている。また、毎月、ユニットごとに会議が行われており、管理者、施設長は各ユニットを回り、状況を把握するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家族状況等を勘案しながら、勤務シフトの調整をしている。スタッフ同士のトラブルが発生した場合は、双方の思いを汲み取り早めに対応している。また、資格取得に取り組めるよう環境整備にも努めている。		

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の勉強会で担当を決め、利用者に合ったテーマで発表し全員で討論し、利用者のケアに役立たせている。外部から講師を招いて研修会を実施し全員参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の協議会や研修会、谷山地区の勉強会への参加を促し、質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者や看護師が本人と面談し気持ちを向うようにしている。スタッフ全員に、現在の状況、状態を伝え情報の共有化を図り、安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族が困っている事、不安な事、または要望をじっくり聞き、それらの解消に努め、家族が気軽に話しやすい環境が提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今何を必要としているかを見極め、必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に過す人生の先輩として、生活の知恵等を教わりながら、支えあう関係を築くよう努めている。		

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、日頃の生活状況や職員の思いを伝え、家族と一緒に支えていけるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が気軽に遊びに来たり、いつでも自宅に帰ったり、馴染みの場所を訪れる支援を行っているが、単発的で継続支援に至っていない。	本人の希望で理美容院・お墓参り・自宅訪問・銀行・買い物などに出かけて、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、友人・知人が訪ねてきやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一部では関係が築かれているが孤立している方もいるので、食事やお茶の時間は職員も一緒に参加し、利用者同士の調整役を努めている。難聴の方には職員が声掛けし、孤立せず関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方の所へ、利用者と一緒に面会に行ったり事業所の行事に参加してもらったりしている。 入院先にも定期的にお見舞いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い出や希望に感心を持ち把握に努めているが、把握が困難な場合は、家族より過去の経験等を聞き対応している。	日常の会話の中で思いや意向を聞き出し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より、生活歴等の情報を聞くようにしている。また入居時には、馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂き、これまでの生活の延長になるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	買い物好きな利用者には、本人の好みの買い物が出来るように支援している。心身状態等は、日誌、申し送り等で情報交換している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンス以外にも、必要に応じて関係者と情報交換をし、現状に即したケアプランを作成している。	本人の希望を課題（ニーズ）に目標と援助内容を作成している。また、入居前からの生活習慣、趣味や楽しみごと（楽器の演奏・週刊誌の購読・外食・ショッピング・散歩など）を継続できるように、個別の介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態や日常生活の様子を、具体的にサービス記録や生活日誌に記録し、情報を共有したりケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族が今何を必要としているかを見極め、看護師と連携し臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の得意な事をする事で、生きがいを感じながら生活する事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を主治医や看護師を通し考え、適切な治療を受けられるよう支援している。年1回、健康診断を行い健康管理に努めている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診同行後は随時家族に報告している。また、薬は薬局から直接ホームに持ってきてもらうなどして管理を徹底している。看護師もおり、緊急時の対応など家族・職員の安心にも繋がっている	

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は、利用者が日頃と異なる状態の場合、管理者、看護師に報告し、適切な処置、受診が出来るよう指示をもらっている。受診の度に受診連絡票を使い正しい情報を提供している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>出来るだけ早期に退院できるように看護師が中心となり、主治医との連携、情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、終末期について書面にて意思の確認をしている。本人、家族の意思を尊重し、希望に添えるようチーム支援している。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を作成している。家族へは契約時にホームの方針を説明して、家族の意向を聞き、同意書を作成している。その後は身体状況に応じてその都度話し合いを行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>正看護師による勉強会を定期的に行っている。</p>		

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、防火、防災訓練（夜間想定も含む）を実施している。運営推進会議にて、地域の方々への協力を呼び掛けている。スプリンクラーを設置し利用者の安全性を高めている。</p>	<p>年2回、避難訓練を行っている。スプリンクラーも設置され近隣との協力体制は話し合われている。また、利用者を交えて地震訓練も行っている。避難訓練後に運営推進会議を行って、参加者から意見や助言をもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った声掛けをスタッフ全員で行っている。命令や指示がないよう特に心がけている。	個々の利用者に応じた声かけなどに配慮がなされている。また定期的に勉強会を行って、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。特に羞恥心に対する配慮が徹底されており利用者の誇りを損なわない対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に利用者の希望を聞くようにし、希望が叶うよう支援している。又、利用者に無理強いせず自己決定できるよう勤めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務を優先せず、一人ひとりの体調や思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好みの洋服を着用してもらったり、希望があればスタッフが髪染めを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根切りなど野菜処理を一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう支援している。準備、片付け等もその人に合った役割を与え支援している。	毎月全員で外出に出かけて食事を楽しんでいる。もちつき、梅干し作り、らっきょう漬け、家庭菜園など利用者のアドバイスをもらいながら共に行っている。	

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、水分摂取量を毎日記録し、状態の変化に応じた対応をしている。必要な時は、食事内容や摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で口腔ケアが出来る利用者には声掛けし、出来ない利用者には見守り介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、トイレでの排泄が出来るよう時間毎にトイレ案内している。その際の声掛けは、他利用者に気付かれないよう配慮している。	身体状況に応じて、可能な限りトイレでの排泄を支援している。安全面を考慮してポータブルトイレは使用していない。自立している利用者もおり、継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排便の確認を行っている。食事やおやつを工夫し、便秘予防に取り組んでいる。軽い運動や散歩への声掛けをし、自然排便が出来るようにしている。		

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を好まない利用者に対しては、タイミングをみて勧めているが、夕方の入浴希望には勤務体制が出来ていないので対応していない。	基本的には一日おきであるが、希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ散歩をしたり、レク運動を行い、夜間に安眠できるよう心掛けている。照明、寝具等、安眠できる環境を整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、本人がしっかり飲み込んだ事を確認し、飲み忘れ、誤薬を防ぐようにしている。薬の目的や副作用について職員が理解するよう、申し送りや勉強会で話し合うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時代劇を好きな利用者が時代劇を楽しめるよう、TV放映時間の案内を行い、放映中は他利用者への気配りをしている。買い物、ドライブ、歌等、個々の望むことを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が許す限り、近隣スーパーの見学や庭の散歩にお誘いしている。毎月、外食日を設け、普段出掛けない場所へ出掛けている。	日常的にホーム周辺の散歩・買い物など出来るだけホームに閉じこもらない生活を支援している。また、毎月の外食とショッピング、季節の花見、果物狩り、弁当持参での運動会見学などにも出かけている。毎年、ユニットごとに一泊旅行にも出かけている。	

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者の場合には、家族と相談し、お金を所持してもらっているが、多額にならないようにしている。買い物の時は、本人が支払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	絵手紙教室を開き、本人の言葉を添えて家族へ出している。電話要望に対しては、気軽に対応するようにしているが時間帯を配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節の花を飾ったり、毎月の季節に相応しい壁面画を利用者と作り飾っている。庭には季節の野菜や草花を植え、季節を感じられるよう心掛けている。	1階のユニットは広い庭に直接出られ、2階のユニットはリビングに面してテラスが作られているので開放感がある。共用空間には大きなテーブルとソファが置かれ、気の合う者どうしがテレビを見たり、おしゃべりを楽しんだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長めのソファを置き、自分の好みの場所でくつろいでもらっている。気の合った者同士の交流に心掛け、居室での静養も大切にしている。		

鹿児島県 グループホームたんぽぽの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みの物を持って来て頂き、心穏やかに過せるように配慮している。プライバシーを大切に、入室する際は声掛けやノックをしている。</p>	<p>ベッド・タンスはホームの備え付けであるが、布団は個々に持ってきてもらっている。テーブル、テレビ、ラジオ、扇風機、仏具、時計、家族の写真など本人が居心地良く過ごせるような居室作りがなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者が、どうしたら本人の力で生活できるのか、その都度、職員で話し合い、不安材料を取り除くよう環境整備に努めている。車椅子で移動、室内散歩をされる際、安心して移動できるように工夫し見守っている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームたんぼぼの里 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームたんぼぼの里 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない